

受け継ぎ生み出す伝統をテーマに

上野焼渡窯の渡久兵衛さんと仁さんによる親子展が、3月10日から7日間、福岡三越で開かれました。福岡市での親子展は初開催。創意の境地に挑む久兵衛さんは、高台を十字に割った「割高台」の茶碗などを出展。仁さんは独自の「ヤケ釉」に磨きかけた黄褐色の器を中心に展示しました。継承と創生が融合した親子展は終始盛会で、高い評価を集めました。



↑多くのファンから反響を得た7日間、最終日に手応えを実感する渡さん親子。

↓TVでおなじみのさわやかな笑顔とウィットに富んだ口調で講演する山際さん。

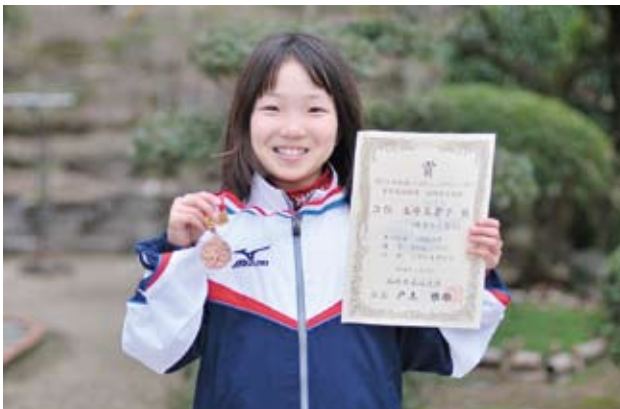


食育の豊富な知識と経験で語りかけ

料理研究家の山際千津枝さんを招いた青少年育成町民会議主催の講演会が、2月27日に地域交流センターで開催されました。TVやラジオのコメンテーターなど多方面で活躍中の山際さんが食育について講演。豊富な知識と実践を通して「大人も子どもも規則正しい食生活のリズムが大事」と、この日を楽しみにしていた参加者に、歯切れ良く語りかけました。

最高のレース運びで銅メダル

福岡市で1月24日・25日に開催された「ジュニアオリンピック・春季水泳大会」の10歳以下100mバタフライに出場した玉井美貴子さん(金田)が、自己ベスト更新の泳ぎで3位の好成績を収めました。5月に福岡市で開催される西日本年齢別選手権大会の出場権を獲得した玉井さんは、今がまさに伸び盛り。さらなる飛躍に向けて日々練習に励んでいます。



↑「特にターンまでの前半がうまくいった」と大舞台上で手応えを感じた玉井さん。

↓満開を願って作業する参加者、カマやノコを持つ手にも一層力がこもります。



新たな息吹のうれしい発見

「虎尾桜を心配する世話人会」主催の虎尾桜周辺整備が3月8日に行われ、会員をはじめ15人が参加。桜の周囲の雑木や下草を除去しました。今回、幹の裂け目近くに新しく生えた根(不定根)を確認。樹木医の宇佐美陽一さん(北九州市)は「皆さんの地道な整備のためもの、状態は年々良くなっています」と桜の診断にお墨付きを与え、目を細めていました。

↓川づくりの整備が進む河川敷で、バケツに分けられた稚魚に声をかけながら放流する赤池中の生徒たち。



母なる川で再会を期待して

「サケの稚魚放流」が3月7日に市場小横の河川敷で行われました。赤池中1年生や保護者、ひこさんがわ夢の会から約150人が参加。清掃活動と水質調査で川への理解を深めた後、サケの稚魚3千匹を放流しました。現場付近は、昨年末8年ぶりに遡上したサケが発見され、まもなく赤池中生徒の意見を反映した野外ステージやカヌー乗り場が完成を迎える記念すべき河川敷。参加者はサケが帰ってこられるような「母なる川」にする意欲を高めながら、再会への期待を胸に優しく放流していました。

国際ソロプチミスト田川が「世話人会」に感謝状

樹齢600年を越す希少種・エドヒガンで県内最大の桜「虎尾桜」を発見し、約20年間にわたり整備やPRを続けた「虎尾桜を心配する世話人会」が、国際ソロプチミスト田川(米安真由美会長)からクラブ賞を受賞しました。3月16日に田川市で授賞式が行われ、表彰状と支援金のほか、ソロプチミスト日本財団から環境貢献賞ノミネートの感謝状が贈られました。



↑米安真由美会長から表彰される「虎尾桜を心配する世話人会」の熊谷信孝会長。

↓発表した生徒たち。赤池中は河川環境の壁新聞を学校廊下に展示して啓発中。



川を身近な環境問題としてとらえて

遠賀川流域の小中学生が川を通じた環境学習の成果を発表する「いけいけチャレンジ! 遠賀川」が、3月7日に直方市で開催されました。流域から7校が参加し、赤池中1年生8人が彦山川の水質テストや廃品回収などの活動を手作りの壁新聞等で発表。地道な取り組みと啓発に加え、廃品回収の収益を福智山パイオトイレに寄付した活動も高く評価されました。